

平成22年度

函館市学習状況調査実施報告書

“あと一歩”の向上を目指して



函館市学力向上プロジェクト推進委員会

函館市教育委員会

刊 行 に 寄 せ て

平成19年に改正された学校教育法では、第30条の2項において、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの育成」「主体的に学習に取り組む態度を養う」ことに意を用いることを定めております。

これらの達成を図るべく、本市の各学校においては、子どもたちの実態に応じて、学校の教育目標を設定し、教育課程の見直しや授業改善に向けた実践的な取組を進めてまいりました。

また、函館市教育委員会におきましても、小学校第4学年において、国語科と算数科、中学校第1学年においては国語科、数学科に加え外国語科の標準学力検査を実施し、検査結果を分析した上で、全市的な課題を明らかにするとともに、改善方策を提案するなど、各学校の学力向上の取組を支援してまいりました。

こうした取組の成果が現れている内容がある一方で、さらなる改善が必要とされる課題もありますことから、今後とも全市を挙げて子どもたちの学力の向上のために努力を重ねていく必要があると考えているところであります。

本報告書は、児童生徒一人一人が学習への意欲を高め、確かな学力を身に付ける上で「あと一步の向上を目指して」取り組む方策をお示しするため作成したものであります。

各学校におきましては、本報告書を有効に活用し、充実した教育活動を積極的に展開されますよう期待しております。

終わりに、本報告書の発刊に当たって、市内各小・中学校及び「函館市学力向上プロジェクト推進委員会」の皆様には、多大なご協力をいただいたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成23年3月

函館市教育委員会教育長

多賀谷 智

生活習慣・学習習慣の形成

学力向上には、学びを支える好ましい生活習慣や子どもたちが学習に落ち着いて取り組める環境づくりが必要です。

学校組織・指導体制の改善

学力向上には、教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

函館市の目指す子ども像

個性豊かに生きる子ども
優しさをもって生きる子ども
たくましく生きる子ども
函館に生きる子ども
共に未来を生きる子ども

望ましい学習態度の育成

学力向上には、学校・学級の集団づくりや学習意欲を高める取組、学習規律の徹底が必要です。

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

学力向上には、知識・理解と思考力・判断力・表現力などをバランスよく育てることが必要です。

「学力をはぐくむ4つ葉」

学力をはぐくむ4つ葉は、函館市教育委員会が、子どもたちの学力をはぐくむための4つの視点を示したものです。

それぞれの葉が、生き生きとした子どもたちを育てる要素となり、学力のさらなる向上につながると考えております。

これら4つの葉が大きく育つよう、教育委員会も支援していきます。

目 次

巻頭言-----	1
「学力をはぐくむ四つ葉」-----	2
1 学力向上のための視点-----	
(1) 学校と保護者が取り組むこと	4
(2) 子どもの意欲を高めるために	6
(3) 小学校国語科における授業改善の視点	8
(4) 中学校国語科における授業改善の視点	10
(5) 小学校算数科における授業改善の視点	12
(6) 中学校数学科における授業改善の視点	14
(7) 中学校外国語科における授業改善の視点	16
(8) 学力向上プロポーザル授業	18
2 標準学力検査の結果から-----	
(1) 平成21年度調査結果の概要	
① 小学校国語科	24
② 中学校国語科	25
③ 小学校算数科	26
④ 中学校数学科	27
⑤ 中学校外国語科	28
3 学習意識調査の結果から-----	
平成21年度学習意識調査結果の概要	29
4 これまでの標準学力検査の結果から-----	
① 小学校国語科の解決すべき課題	32
② 中学校国語科の解決すべき課題	33
③ 小学校算数科の解決すべき課題	34
④ 中学校数学科の解決すべき課題	35
⑤ 中学校外国語科の解決すべき課題	36
⑥ H19～H21 追跡調査	37
5 全国学力・学習状況調査概要-----	
(1) 平成22年度全国学力・学習状況調査結果 函館市の概要について	39
(2) 学力状況調査の結果の概要及び結果に基づく学習活動や家庭学習の改善について	
① 小学校国語	40
② 中学校国語	41
③ 小学校算数	42
④ 中学校数学	43
(3) 学習状況調査の結果の概要について	44
(4) 「教科に関する調査」の解答類型からとらえた本市の傾向	46
6 巻末資料集-----	
① ノート指導について	47
② 思考を促す発問・指示	48
③ その他の資料	49
参考文献・編集者一覧	50

1 学力向上のための視点

(1) 学校と保護者が取り組むこと

生活や学習の計画づくり

- 学級活動における計画づくり
 - ・意欲的・計画的な学習態度の形成を図る。
 - ・余暇を有効に活用する。
- 計画に対する継続的な評価の実施
- 家庭でのルールづくり
 - ・ゲーム、携帯等の利用時間を決める。

など

家庭学習の充実

- 家庭学習の習慣化
(例)・「学年×10分」の家庭学習を行う。
- 家庭学習の内容
(例)・音読、視写、漢字練習、計算練習、単語の書き取り、日記、既習の復習を行う。

など

食生活の改善

- 家庭科、技術・家庭、学級活動
 - ・自分の食生活を振り返る。
- 食生活の改善に向け、家族で取り組むことを決める。

など

学習常規の重視

- 望ましい学習態度
(例)・時間を守る。
 - ・休憩中に学習用具の準備をする。
- 望ましい学習習慣
(例)・前日に学習用具の準備をする。
- 望ましい学習環境
(例)・正しい言語の使用
 - ・計画的な掲示や展示を行う。

など

発表の仕方、聞き方、話し合いの提示

- 望ましい話し方、聞き方、話し合い方の提示
 - ・発達段階を配慮する。
 - ・教室に掲示し、継続的に全教育活動で指導する。

など

ノート指導の充実

- 基本的なノートづくりの指導
(例)・記入にかかわる基本的な項目の提示
 - ・ノート点検や評価を工夫する。

など

➡ (P47 参照)

生活習慣・学習習慣の形成

- ◇ 食育
- ◇ 家庭学習の習慣化
- ◇ 早寝・早起き・朝ごはん
- ◇ 家庭でのコミュニケーション
- ◇ あいさつ(礼儀)

規則正しい生活習慣 学習習慣の定着

望ましい学習態度の育成

- ◇ 教室環境の整備
- ◇ 学習用具の整備
- ◇ 発表の仕方・聞き方
- ◇ ノート指導
- ◇ 「学び」のポイントやコツの習得
- ◇ 集団としての規律

支持的風土の醸成

学校組織・指導体制の改善

- ◇ 学力向上に向けた校内組織の確立
- ◇ 諸調査の分析
- ◇ 校内研究の充実
- ◇ 教師の授業力アップ
- ◇ TTや教科担任制の活用などの指導体制の工夫・改善

校内研究の充実

学力向上推進委員会等の取組

- 学力向上プランの作成と検証
 - ・ 諸調査等の結果に基づき、プランを作成し、検証・改善を図る。 など

指導方法や指導体制の充実

- 指導方法や指導体制の工夫改善
 - ・ すべての教職員による協力した指導を行う。
 - ・ 個別指導やグループ指導、繰り返し指導などの学習活動を取り入れる。 など

実践的指導力の向上

- 研究授業の実施
 - ・ 授業改善に向け、全員が研究授業を行う。
- 研究協議の充実
 - ・ ワークショップ型の研究協議を実施する。 など

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

- ◇ 言語環境の整備及び言語活動の充実
- ◇ 体験的・問題解決的な学習の充実
- ◇ 授業改善の充実
- ◇ 繰り返し指導
- ◇ 読書指導の推進

わかる授業の展開

「わかる授業づくり」の推進

- 思考を促す発問・指示 (P48参照)
 - ・ 考えを広げたり、深めたりするための発問の工夫を図る。
 - ・ ねらいに迫るために考え、表現する学習活動を位置付ける。
- 問題解決的な学習の充実
 - ・ 自力解決に加えて、集団において解決する活動の展開を工夫する。
 - ・ 学習効果を高める学習形態を工夫する。
- 個に応じた指導の充実
- 板書の工夫 など

言語活動の充実

- 思考力・判断力・表現力等の育成
 - ・ 各教科等の特性に応じた言語活動の充実を図る。
 - ・ 根拠、筋道などを促すキーワードを活用する。 など

効果的な読書指導

- ・ 朝読書を実施する。
- ・ 多様な読書活動を工夫する。
- ・ 学校図書館を計画的に活用する。
- ・ 家庭で読み聞かせをする。

家庭で取り組める内容は破線で囲んで表しています。

など

1 学力向上のための視点

(2) 子どもの意欲を高めるために

各教科における指導のポイント例

始業前の学習の工夫

【始業前の学習のポイント】

- 1 学校全体で共通理解を図り、学年や学級において具体的な計画を立てる。
- 2 計画表や学習カードなどを活用し、児童生徒が成長を実感できるようにする。
- 3 自ら学習計画を立てたり、学習内容を選択したりするなど、意欲的に取り組むことができるようにする。
など

問題解決的な学習の充実

【問題解決的な学習の意義】

主体的に学習に取り組む能力を身に付けさせるとともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる上で有効である。

発問の工夫

【ねらいに即した発問例】

- ①既習事項を確認する発問
- ②学習課題に導く発問
- ③思考を広げたり、深めたりする発問
- ④判断を促す発問
- ⑤比較したり異同を明確にしたりする発問
- ⑥自分の考えやイメージを出させる発問
- ⑦視点を転換させたり、ヒントを与えたりする発問
- ⑧自分を振り返らせる発問
- ⑨次の学習への意欲化を図る発問
など

ノート指導の工夫

【ノート指導のポイント例】

- 板書との関連を図りながら、ノートづくりを工夫させる。
- ノートの記述内容を把握し、授業改善に生かす。
 - ・授業の道筋や要点のとらえ方、レイアウトなどを助言や励ましの観点とする。
など



意欲を高めるための チェックシート例

始業前の学習では

- 学習のねらいを明確にしていますか。
- 時期や指導内容は決めていますか。
- 個・ペア・グループ・全体など、効果的な学習形態を想定していますか。
- 板書計画はたててありますか。
- 考えたくなる・知りたくなるような教材・教具の工夫をしていますか。

問題解決的な学習を充実するためには

- 既習事項や基本的学習内容の確認（振り返り）をしていますか。
- 自分なりの課題をもたせていますか。
- 掲示物や板書の工夫により、解決の見通しを教師自身はもっていますか。
- 児童生徒に解決の見通しをもたせていますか。
- 個の学びを深める時間や集団での意見交流などの時間は設定していますか。
- 解決の道筋を振り返り、学んだことを深めさせる時間は十分に設定していますか。

発問の工夫では

- 学習課題に導く発問をしていますか。
- 一問一答ではなく、考えが広がり深められる主要発問をしていますか。
- 考えが膨らむように、視点を換えさせたり、ヒントを与えたりするような発問をしていますか。
- わかりやすい言葉で発問していますか。

ノート指導の工夫では

- 発達段階に応じたノート指導をしていますか。
- どの場所に何を書くか、書き方の一定の決まりはありますか。
- 普段からこまめにノートチェックをし、よさを周囲に知らせていますか。
など

道徳における指導のポイント例



全教師の協力体制の下、学校、家庭、地域が一体となった道徳教育の展開

- 全教師が学ぶ意義の理解にかかわる指導について共通理解を図り、組織的な取組に努める。
- 学校の教育活動を外部にひらき、理解と協力を得る。

- ・学ぶ意義や価値の理解の指導にかかわる校内研修の実施
- ・家庭や地域への道徳の時間の授業公開や懇談会の実施
- ・実際に活用できる具体性のある全体計画の作成
- ・「道徳教育推進教師」を位置付けた組織体制の確立
- ・「学ぶ意義や価値の理解」の学校評価への位置付け

自己の課題や悩みに主体的に取り組む、よりよく生きようとする態度の育成

- 多様な教材や体験活動等を生かした指導の工夫などにより、児童生徒が自己の内面を見つめることができるようにする。

- ・調査やアンケート、新聞やVTR、日常生活と関連した読み物資料など、心に響く教材を活用する。
- ・役割演技のような表現活動を取り入れ、自分や周囲の気持ちをとらえさせる。
- ・職場体験等の体験活動の作文や感想などを活用して、道徳的価値の内面化を図る。
- ・地域の方や専門家などの体験談を効果的に取り入れ、学ぶことの大切さを実感させる。
- ・心のノートや道徳ノートに自分の思いや願いを記述することにより、自分の生き方を整理させる。

特別活動における指導のポイント例



自分たちでつくったきまりを守る活動を通したよりよい生活を築こうとする態度の育成

- 話し合い活動を通して、自主的に学習態度にかかわるめあてをつくり、きまりを守る活動を行う。

きまりをつくる活動	きまりを守る活動	振り返る活動
・話し合いを通してきまりをつくる。	・学級全体できまりを確認しながら守る。	・活動を振り返り、次の活動への意欲付けをする。

教師の継続的な指導を通した希望や目標をもって生きる態度の育成

- 学級全体で決めためあてが学習活動や日常生活で実現できるよう、教師は、継続的に児童生徒の活動を見取り、学級全体の学習態度の変化を賞賛したり、励ましたり、改善を促したりするなど、事後指導を行い、自信や意欲を高める。

授業展開例

過程	学習活動
導入	○これまでの自分の学習態度を振り返る活動
展開	○自分や学級の今後の在り方について考える活動 ○学級全体の学習態度の向上を図る話し合い活動
まとめ	○学級全体のめあてを明確にする活動

※ 事後 教師による賞賛や励ましを行う。

1 学力向上のための視点

(3) 小学校国語科における授業改善の視点

本単元における授業改善のポイント

小学校国語科第3学年「読むこと」単元の指導計画例

- ◎ 見通しをもった学習の重視 (例：絵文字発表会で自分の考えた絵文字を発表するために など)
- ◎ 興味・関心を高める工夫 (例：クイズの実施や他の教育活動との関連 など)
- ◎ 家庭学習との関連の重視 (例：身の回りの絵文字を発見 など)
- ◎ 言語活動の位置付け (例：読んだ内容に関連した本を読む活動 など)
- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能の定着 (例：要約、段落の要点、問題文とその答えの対応 など)

1 単元(題材)名 「身近な話題をとらえて話し合おう」 題材名「くらしと絵文字」(18時間扱い)

2 単元の目標

段落のつながりや表現の仕方に気を付けて文章を読んだり、考えたことを発表したりして、わかりやすい説明の仕方を考える。

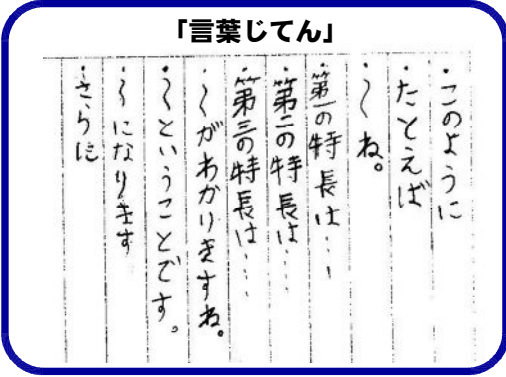
3 単元の評価規準

- ア【国語への関心・意欲・態度】
段落のつながりや表現の仕方に気を付けて、文章を読んだり、考えたことを発表したりして、わかりやすく説明しようとしている。
- イ【読むこと】
段落のつながりを考えて文章を読んでいる。
文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりしている。
- ウ【話すこと・聞くこと】
自分の考えを筋道立てて丁寧な言葉を用いて話している。
話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりしている。
- エ【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。
新出漢字を文や文章の中で書いたり読んだりしている。

4 単元の指導計画

時	目標	主な学習活動	評価規準
1	○ 単元全体について、学習の見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の扉を見て、学習内容を知り、学習の見通しをもつ。 ・絵文字について知っていることを発表する。 ・絵文字クイズを行う。 ★校内にある絵文字を見つけてカードにかいて紹介し合う。 	ア
2	○ 見つけてきた「絵」を紹介し合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 図工室や家庭科室の前に絵文字があった。 非常に口がすぐにわかるので安心だ。 ★身の回りから絵文字を見つけてカードにかいて紹介し合う。 何の店かすぐわかる絵文字があった。 かわいい絵文字がいくつかあった。 	アイ
3	○ 絵文字が広く使われているわけを、その特徴に気を付けながら、整理して読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を読み、感想をもつ。 ・新出漢字の読み方、書き方を学習する。 	アエ

- ◎ **見通しをもった学習の重視**
・単元全体について、学習の見通しをもたせる。
- ◎ **興味・関心を高める工夫**
・絵文字を見て、意味を考えるクイズを行い、題材に興味・関心をもたせる。
- ◎ **家庭学習との関連の重視**
・家庭学習で、家庭や地域で見つけた絵文字をカードにかかせる。
- ◎ **言語活動の位置付け(★)**

時	目 標	主な学習活動	評価規準
4	○ 絵文字の特徴について、まとめて述べた部分と具体的に述べた部分に注意して読み、文章を要約することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の学習をする。 ・ 段落に分ける。 ・ 学習計画を立てる。 	ア エ
5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1段落を読み、絵文字の定義と、現在の使われ方について、まとめる。 	アイ エ
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2段落を読み、絵文字の特徴を3つとらえ、絵文字がたくさん使われる理由をまとめる。 ・ 第3段落を読み、これからのくらしと絵文字の役割について理解する。 	アイ エ
7		<p style="text-align: center;">「言葉じてん」</p> 	アイ エ
8	○ 絵文字や記号の種類、使われ方について広く知るために、関連する本を探して読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全文を読み、段落ごとの要点をつかみ、各段落の役割をとらえる。 <p>絵文字を見た瞬間に意味がわかる。</p> <p>伝える相手に親しみと楽しさを感じさせる。</p> <p>その意味が言葉や年齢などの違いをこえてわかる。</p>	ア エ
9		<ul style="list-style-type: none"> ★関連する内容の本を読む。 	ア
10	○ 説明の始め、中、終わりに気を付けて、絵文字を説明する文章を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が集めた絵が絵文字かどうか話し合う。 ★自分の作りたい絵文字を考え、テーマに基づいてカードにかく。 ★自分の考えた絵文字を紹介するためのスピーチメモを構成に気を付けて書く。 ・ スピーチメモをもとに、発表の練習をする。 	ア ア ア
11			ア
12			ア
13			ア エ
14			ア エ
15	○ 事柄の中心的部分と補足的な部分との書き分けに気を付けて、自分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに発表を聞き合い、スピーチメモを修正する。 	ア エ
16	が取り上げた絵文	<ul style="list-style-type: none"> ★絵文字発表会を行う。 	ア エ
17	字を説明すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返り、わかりやすい説明の仕方について確かめる。 	ア ア
18	ができる。		ア

◎ **見通しをもった学習の重視**

- ・ 学習計画を立て、絵文字発表会に向けて見通しをもたせる。
- ・ 総合的な学習の時間での発表会のVTRを見て、自分の発表の仕方を振り返らせる。

◎ **興味・関心を高める工夫**

- ・ 新1年生の体験入学に向けて、校内に完成した絵文字を掲示する計画を立て、意欲を高める。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- ・ 1単位時間で身に付けさせたい言葉の特徴やきまりについて、確認する場を設定する。 (要約、段落の要点、問題文とその答えの対応、主語と述語、指示語、接続語)
- ・ 「言葉じてん」に「説明に使う言葉」を書き加えるよう促す。

◎ **興味・関心を高める工夫**

- ・ 様々な絵文字や記号、その使われ方について広く知る場を設定する。

◎ **興味・関心を高める工夫**

- ・ 「いろいろな絵を見つけよう」で見つけた絵が絵文字かどうか考えさせる。

◎ **見通しをもった学習の重視**

- ・ 聞き取りメモを活用し、説明の順序や話の組み立て方を意識させる。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- ・ わかりやすい説明にするために「言葉じてん」を活用させ、順序を表す言葉や接続語などに気を付けて書かせる。
- ・ 学習前の発表の仕方と絵文字発表会の発表の仕方をVTRで比較し、よさを具体的に確認させる。

◎ **言語活動の位置付け (★)**

※ 太字下線の(例 絵文字を見て、意味を考えるクイズ)は、授業改善のキーポイントを示しています。

1 学力向上のための視点

(4) 中学校国語科における授業改善の視点

本単元における授業改善のポイント

中学校国語科第2学年「書くこと」単元の指導計画例

- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能の定着
(例：既習の作品を教材として使用し、知識を生かして作品を理解する。 など)
- ◎ 子どもに気付かせる工夫
(例：平易な言葉を使って作品を読んだ感想や自分の考えを表現する。 など)
- ◎ 学び合いの工夫
(例：自分の考えを明確にし、互いに交流することで深める。 など)
- ◎ 興味・関心を高める工夫
(例：当時の人々の生活や習慣について写真や絵を使用する。 など)
- ◎ 相手意識をもつ工夫
(例：客観的に自分の表現したものを推敲する。 など)
- ◎ 言語活動の位置付け
(例：自分が読んだ古典を紹介するための文章を書く。 など)

1 単元名 「古典に親しむ」 教材名 『竹取物語』を中心に(5時間扱い)

2 単元の目標

小学校で身に付けた力を生かして、歴史的背景などに注意し主的に古典を読むことで、その世界に親しみ、他と交流しながら、古典の一部を引用して、古典を紹介する文章を書く。

3 単元の評価

ア【国語への関心・意欲・態度】

自分の読んだ古典作品について興味をもち、当時の人々のものの見方や考え方を想像し、互いに交流しようとしている。

イ【読むこと】

文章を読んで、知識を広げたり、自分の考えを深めたりしようとしている。

ウ【書くこと】

社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文の形態を選択して適切な構成を工夫している。

論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書いている。

エ【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像しようとしている。

文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文の音読を通して、古典特有のリズムを味わいながら音読している。

4 単元の指導計画

時	主な学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品について確認する。(ワークシートや写真などを使用) 4月に学習した『おくのほそ道』は何時代の作品ですか? 「江戸時代です。修学旅行で行った平泉のことが書かれていました。」 こんな姿でずっと旅していたんだね。 ・ 基本事項を確認する。(ワークシートの使用) ・ 歴史的仮名遣いのきまり ・ 係り結びの法則 ⇔ 繰り返し学習することで定着。 ・ 歴史的仮名遣いを確認しながら音読する。 	ア エ アエ

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- ・ 既習内容が身に付いているか、ワークシート等を使用し、確認する。
- ・ 古文を正確に音読させる。

◎ **興味・関心を高める工夫**

- ・ 写真や絵を見ながら、当時の人々の生活や習慣に興味・関心をもたせる。

時	主な学習活動	評価規準	学習活動の工夫
2	<p>・ 作品の内容を確認する。(『竹取物語』冒頭部分の続き) (かぐや姫の成長に伴って、当時の行事や服装を絵などを用いて確認する。)</p> <p>★ 当時の人のものの見方や考え方を振り返り、自分の感想をもち、互いに交流する。</p> <p>初めて知ったこと ⇨ 「へえ～」 今の私たちと同じところ ⇨ 「あるある」 原文で気に入ったところ ⇨ 「ここ！」 それぞれ色別のカードに記入すること ⇨ で明確になり、それを用いて交流する。</p> <p>・ 作品について興味をもち、自分が読み進める作品を選ぶ。</p>	<p>アイ</p> <p>アエ</p> <p>アイ</p> <p>エ</p>	<p>◎ 学び合いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文を読んで想像した自分の考えを互いに交流することで、作品への読みを深める。 <p>◎ 子どもに気付かせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 平易な言葉を使って作品を読んだ感想や自分の考えを表現させる。 <p>◎ 興味・関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲示物等を使って、今まで学習してきた古典作品の違う部分を選び、自ら読み進める古典作品を選択できるようにする。 <p>◎ 言語活動の位置付け (★)</p>
3	<p>・ 自分が選んだ作品の内容を確認する。 (ワークシートや資料を活用する。)</p> <p>自分で読み進める手助けとなる資料の提示</p> <p>★ 当時の人のものの見方や考え方を振り返り、自分の感想をもち、紹介文をつくるためのワークシートに記入する。</p> <p>⇨ 『竹取物語』で学習した視点を生かす。 (「へえ～」 「あるある」 「ここ！」)</p> <p>紹介文を書く下地となるワークシート</p>	<p>アイ</p> <p>エ</p> <p>ア</p> <p>エ</p>	<p>◎ 相手意識をもつ工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介文を書くときに、どのような構成で文章を組み立てれば、相手に伝わるのかを考えて書かせる。 紹介文には、あらすじだけではなく、自分の考えや古典の一部分を引用するなど工夫させる。 <p>◎ 学び合いの工夫</p>
4	<p>★ 読んで気に入った部分を引用したり自分の感想などを入れながら、構成を工夫して書く。</p> <p>⇨ その古典作品の内容を知らない相手に紹介するためにどのような構成で文章を組み立てると良いかを考える。</p> <p>★ 同じ作品を選んだ人と書いた作品を読み合い、推敲する。</p> <p>⇨ 作品の内容、古文の引用の仕方、自分の視点との違いなどに目を向け、互いに自分の作品の参考とする。</p> <p>どうしてこの作品を選んだかがよく伝わってきたよ。</p> <p>このままだと、あらすじが詳しくて、「へえ～」 「あるある」がよくわからないなあ。</p> <p>古文の引用の仕方を自分も参考にして書き直してみよう。</p> <p>みんなに伝わるような紹介文にするにはもっと工夫した方がいいな。</p>	<p>アエウ</p>	<p>◎ 言語活動の位置付け (★)</p>
5	<p>★ 他の作品を読んだ人の紹介文を互いに読み合い、当時の人々のものの見方や考え方を踏まえ、自分の感想をもつ。</p> <p>⇨ 互いに読み合ったら、感想や自分の考えを付箋に記入して貼る。</p> <p>・ 古典作品への興味を継続できるように学習を振り返る。</p> <p>今度は、〇〇さんが紹介していた『枕草子』を読んでみようかな。</p>	<p>ア</p> <p>アエ</p>	<p>◎ 学び合いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介文を交流しながら古典作品に対する自分の思いを深める。 <p>◎ 興味・関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> この単元で終わるのではなく、今後、それぞれの読書活動の中に古典が含まれるように興味をもたせる。 <p>◎ 言語活動の位置付け (★)</p>

※ 吹き出し内の(例 写真や絵を見ながら)は、授業改善のキーポイントを示しています。

1 学力向上のための視点

(5) 小学校算数科における授業改善の視点

本単元における授業改善のポイント

小学校算数科第2学年「数と計算」単元の指導計画例

- ◎ 問題解決的な学習の積極的な位置付け
(例:「課題把握」「自力解決」「小交流」「全体交流」「まとめ」の過程を単元の中でも繰り返す など)
- ◎ 思考力, 判断力, 表現力等を高める算数的活動の充実
(例:自分の考えを言葉, 図, 式などで書き表す など)
- ◎ 学び合いの工夫 (例:自分の考えを小集団や全体で伝え合う活動 など)
- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能の定着
(例:練習問題の位置付けや時間の確保 など)

1 単元名 「計算のしかたをくふうしよう」(4時間扱い)

2 単元の目標

加法の結合法則, 簡単な加減の暗算の仕方, 3口の加減の筆算の仕方を理解することを通して, 加減計算の理解を深め, それを用いる能力を高める。

3 単元の評価規準

- ア【算数への関心・意欲・態度】
計算方法や数のしくみを活用するよさに気付き, 進んで計算の仕方を工夫しようとしている。
- イ【数学的な考え方】
()の中を1つの数と見て, 式の意味をとらえている。
- ウ【数量や図形についての技能】
結合法則を活用して, 順序を工夫して計算ができる。
簡単な加減の暗算ができる。
- エ【数量や図形についての知識・理解】
加法における結合法則が成り立つことを理解している。
3口の加減の筆算の仕方を理解している。

4 単元の指導計画

時	目標	主な学習活動	評価規準
1	3口の数の加法計算の仕方を工夫しようとする。 加法の結合法則と, ()の使い方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題意をとらえ, 立式する。 ・ $15+40+30$の計算の仕方を考え, 言葉や図や式を使って用紙に書く。 ・ 用紙に書いたことをもとに, 自分の考えを小集団で交流する。 ・ 全体で考えを交流, 検討し, 3口の計算の仕方を見いだす。 ・ 練習問題に取り組む。 	ア イ ウ イウ エ
2	簡単な加法の暗算の仕方を理解し, その暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ $26+7$の計算を暗算でする方法を考える。 ・ 自分で考えた暗算の仕方を言葉や図や式を使って, 用紙に書く。 	ア イ

- ◎ **問題解決的な学習の積極的な位置付け**
 - ・ 課題に対して興味を持ち, 内容がわかるように課題提示や場面の設定をする。
- ◎ **思考力, 判断力, 表現力等を高める算数的活動の充実**
 - ・ 既習を基に, 言葉や式や図を使って解き方を書かせる。
- ◎ **学び合いの工夫**
 - ・ 小集団で交流させ, 自分の考えを話す機会を増やす。
- ◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**
 - ・ ()を使って3口の計算練習をする時間を設定する。

時	目 標	主な学習活動	評価規準
		<ul style="list-style-type: none"> 用紙に書いたことをもとに、自分の考えを小集団で交流する。 全体で考えを交流，検討し，加法の暗算の仕方を見いだす。 練習問題に取り組む。 	ウ イウ エ
3	簡単な減法の暗算の仕方を理解し，その暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 42-7の計算を暗算でする方法を考える。 自分で考えた暗算の仕方を言葉や図や式を使って，用紙に書く。 用紙に書いたことをもとに，自分の考えを小集団で交流する。 全体で考えを交流，検討し，減法の暗算の仕方を見いだす。 練習問題に取り組む。 	ア イ ウ イウ エ
4	3口の加減の筆算の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 36+18+19の計算を筆算でする方法について考える。 それぞれの筆算の仕方を全体で交流，検討し，3口の加法の筆算の仕方をまとめる。 練習問題に取り組む。 	ア イウ ウ
		<ul style="list-style-type: none"> 38-47+29の計算を筆算でする方法について考える。 それぞれの筆算の仕方を交流，検討し，3口の加減混合の筆算の仕方をまとめる。 練習問題に取り組む。 	ア イウ ウエ

◎ **問題解決的な学習の積極的な位置付け**

- 自力解決の時間を十分に確保する。

◎ **思考力、判断力、表現力等を高める算数的活動の充実**

- 結論を先に書いて説明するように促す。

◎ **学び合いの工夫**

- 友だちの考えに対してアドバイスをしたりヒントをもらったりさせる。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- 加法の暗算練習の時間を設定する。

◎ **問題解決的な学習の積極的な位置付け**

- いくつかの考え方の中から，よりよい考えや解決法などを話し合う時間を十分に確保する。

◎ **思考力、判断力、表現力等を高める算数的活動の充実**

- 考えを説明する際に、「はじめに」「次に」など、接続詞を使うように促す。

◎ **学び合いの工夫**

- 自分の考えと「同じ」「違う」という観点で比較させ，どんな解き方があるか仲間分けをさせる。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- 減法の暗算練習の時間を設定する。

◎ **思考力、表現力、表現力等を高める算数的活動の充実**

- 自分の考えた計算方法を理由を述べながら説明させる。

◎ **学び合いの工夫**

- 算数を学ぶよさを感じられる授業の展開の工夫を行う。
(は・か・せ・う・どん)
← 左の囲み参照

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- 3口の加減の筆算練習の時間を設定する。

※ 吹き出し内の（例 言葉や式や図を使って解き方）は授業改善のキーポイントを示しています。

算数を学ぶよさ

は・・・速く
か・・・簡単に
せ・・・正確に
う・・・美しく
どん・・・どんな時も

1 学力向上のための視点

(6) 中学校数学科における授業改善の視点

本単元における授業改善のポイント

中学校数学科第1学年「図形」単元の指導計画例

- ◎ 思考力、判断力、表現力等を高める数学的活動の充実
(例：点対称な図形を合同な2つの図形にわけの切り口 など)
- ◎ 学び合いの工夫
(例：小集団での交流の確保、小集団での交流と全体交流の間の自力解決 など)
- ◎ 教材・教具の工夫 (例：3つの図形の移動のイメージの明確化 など)
- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能の定着
(例：学習内容の確認・定着、次時につながる内容 など)

1 単元名 「平面図形」(15時間扱い)

2 単元の目標

平面図形についての理解を深めることができるようにするとともに、基本的な図形を見通しをもって作図することができるようにする。

3 単元の評価規準

ア【数学への関心・意欲・態度】

観察、操作や実験を通して、平面図形の性質を調べたり、それらを数学的に考察したりするなど、数学的活動の楽しさや数学的に考えることよきに関心をもち、意欲的に問題の解決に活用しようとしている。

イ【数学的な見方や考え方】

平面図形についての基礎的な知識の習得や活用を通して対称性に着目したりするなど、図形に対する直感的な見方や考え方を身に付け、筋道を立てて考えている。

ウ【数学的な技能】

平面図形を基本的な作図方法によって適切に表現することができる。

エ【数量や図形についての知識・理解】

線対称や点対称などの平面図形についての性質や関係、及び基本的な図形の作図の仕方などを理解している。

4 単元の指導計画

時	目 標	主な学習活動	評価規準
1	線対称・点対称の意味を理解し、線対称・点対称な図形を身のまわりから見つけたり、作ったりすることができる。	・線対称な図形に対称軸を書き入れて切り分け、合同な図形になることを確認する。	アエ
2	合同の意味を理解する。	・点対称な図形を合同な2つの図形にわけの切り口を考え、対称の中心を見つける方法について考える。	アイ
3	平面図形に関する用語や記号を理解し、それを用いることができる。	・平面図形に関する用語や記号について学習する。	エ
4	線対称な図形、点対称な図形の性質を理解する。	・線対称や点対称の図形の性質を確認し、その性質を利用し、線対称や点対称の図形を作る方法について考える。	アイ

◎ 思考力、判断力、表現力等を高める数学的活動の充実

- ・図形を裏返したり重ねたりして比べることができるよう、TPシートに印刷した図形を活用する。

◎ 学び合いの工夫

- ・自分の考えと比較しながら理解を深めるために、小集団での交流の時間を確保する。
- ・交流した考えを整理するために、小集団での交流と全体交流の間に自力解決を時間を確保する。

◎ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・対応する点をとらえやすい図形を提示し、学習内容の確認と定着を図る。

時	目 標	主な学習活動	評価規準
5	円や弧，弦，扇形について理解する。 多角形や正三角形の意味とその性質を理解する。	・円や弧，弦，扇形に関する用語や記号を学習する。 ・円の線対称性や点対称性について学習する。また，円の対称軸の性質について考える。	エ アイ
6	交わる2つの円の性質を理解する。	・交わる2つの円の半径と対称軸の関係について考える。	イ
7	作図の意味を理解する。 三角形を記号△を使って表すことができる。	・作図の意味について学習する。 ・条件を満たすコンパスの使い方について考える。	エ アウ
8	垂線や線分の垂直二等分線，角の二等分線の意味を理解し，その作図ができる。	・交わる2つの円の性質と垂線や線分の垂直二等分線，角の二等分線を比較し，作図の仕方について考える。 ・線分の垂直二等分線や角の二等分線がどんな点の集まりであるか考える。	アウ アイ
9			
10			
11			
12	接する，接線，接点の意味を理解し，接線の性質を利用して接線の作図ができる。	・接する，接線，接点の意味について学習する。 ・接線の性質を利用して，接線の作図について考える。	エ アウ
13	いろいろな条件の図を，基本的な作図を使って求めることができる。	・問題文から性質や条件を読み取り，それに適する作図を利用することについて考える。	アイ
14	基本となる移動には3つの移動があることを知る。	・3つの移動の意味について学習する。	エ
15	それぞれの移動における性質を理解する。	・それぞれの移動における性質を利用して作図する方法を考える。	アイ

◎ **思考力，判断力，表現力等**
を高める数学的活動の充実

- ・実際に円を作り，切り取り，折ったり回転したりする活動を取り入れ，円の対称性について実感を伴った理解を促す。
- ・各自で異なる大きさの2つの円を作図し，比較することで，共通点に注目し交わる2つの円の対称性について理解を深める。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- ・確認した性質を利用するだけでなく，作図の考え方につながる内容についても確認できるよう工夫する。

◎ **教材・教具の工夫**

- ・3つの移動についてアニメーションを提示することで，図形移動のイメージを明確にし，理解を促す。

◎ **思考力，判断力，表現力等**
を高める算数的活動の充実

- ・考えを説明する際に，「はじめに」「次に」など，接続詞を使うように促す。

◎ **学び合いの工夫**

- ・各移動について各自の考えを比較・検討し，理解を深められるよう小集団での交流の時間を確保する。

◎ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

- ・対称移動させた図形については，作図を通して書く方法を考えさせる。

※ 吹き出し内の（例 IPシートに印刷した図形を活用）は，授業改善のキーポイントを示しています。

1 学力向上のための視点

(7) 中学校外国語科における授業改善の視点

本単元における授業改善のポイント

中学校外国語科第2学年「Unit 6」

単元の指導計画例

- ★ 主体性を高める工夫
(例：対話や紹介の題材として、自分の趣味・嗜好、自宅周辺の様子、自分の住む函館の様子を取り上げる。 など)
- ◎ コミュニケーション能力を養う系統的な学習
(例：対話練習で使う言語材料を意識して前時や前単元で使用したものを再用。 など)
- ◎ 反復練習の工夫
(例：ペアワークの相手が偏らないようにするとともに、自分が調べた内容について新材料を活用させる。 など)
- ◎ 4技能を総合的に扱う授業展開の工夫
(例：「聞く」題材でも、その内容に類似したものをあらかじめ対話練習させる。「話す」そして対話して得た情報を「書き」まとめる。学習の仕上げとして「聞き取り」を行う。 など)
- ◎ 書く活動の充実
(例：自分が調べた内容について作文させる、グループで話し合い、あるテーマに沿った文章の流れを考えさせる。 など)

1 単元名 「Unit 6 The Story of Silent Night」(10時間扱い)

2 単元の目標

題材：「きよしこの夜」の誕生の経緯を知る。

言語：There is構文と動名詞の形・意味・用法を理解し、表現することができる。

3 単元の評価規準

ア【外国語への関心・意欲・態度】

ものや人の位置や場所について紹介したり、活動場面で積極的に相手に尋ねたり答えたりしようとしている。

自分の好みや趣味について紹介したり、活動場面で積極的に相手に尋ねたり答えたりしようとしている。

イ【外国語の表現の能力】

場所や自分の趣味・嗜好について簡単な紹介したり、その内容について尋ねたり答えたりしている。

ウ【外国語の理解の能力】

目標文の使い方を理解し、目標文を含む本文を聞き取り、内容を理解している。

エ【言語についての知識・理解】

There is構文や動名詞の形・意味・用法について理解している。

4 単元の指導計画

時	目標	主な学習活動 (★主体性を高める表現活動)	評価規準
1	【Starting Out】 【Dialog】 話題の導入、学習課題の提示、言語材料を意識して対話練習に取り組み、形・意味・用法を理解する。	・自分の家の近くにどんな建物があるか考え、それを相手に紹介する。 ★ペアワークを頻繁に行う。 ・コンビニに行く目的を考え、相手に場所を教えてもらうよう話しかけて対話をする。	イ アイ
2		★インタビューゲームを行い、自分の友人の家の近くには何があるのかを調べ、新しい言語材料を使用して作文する。	ウエ
3	積極的に課題に取り組み、課題を解決する。		

★ 主体性を高める工夫

- ・実際に自分の家の周りの建物について英語で表現させる。

◎ 反復練習の工夫

- ・実際の使用場面を想定してできるだけ多くの友人と対話練習をさせる。

◎ 書く活動の充実

- ・調査内容を作文させる。

時	目 標	主な学習活動 (★主体性を高める表現活動)	評価規準
4	【Reading for Communication】 言語材料を意識して対話練習に取り組み、形・意味・用法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の嗜好について尋ねたり、応答したりする。 ★前の Unit で学習した内容や、1年生で学んだ言語事項を意識して応答する。 ★インタビューゲームを行い、自分の友人の嗜好を新しい言語材料を使用して英作文する。 	アイ エ ウ
5	積極的に課題に取り組み、課題を解決する。	★インタビューゲームを行い、自分の友人の嗜好を新しい言語材料を使用して英作文する。	ウ
6	物語の内容を読み取り、感情を込めて音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容を読み取り、登場人物の心情を考えながら音読する。 作成した文は家庭学習でノートにまとめる。 	アイ エ
7	【Listening Plus 6】 話題の導入、学習課題を提示する。 既習事項を思い出し、その表現を使い対話する。 メモを取るなど工夫して聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> クリスマスソングにはどんなものがあるか意見を出し合う。 クリスマスにはどんな過ごし方をするか意見を出し合う。 ★ペアワークでクリスマスの予定を聞く表現を確認する。 ★インタビューゲームを行い、自分の友人のクリスマスの予定を英作文する。 作成した文は家庭学習でノートにまとめる。 クリスマスコンサートについて聞き取る。 	アイ アイ アイ エ ウ
8	【Speaking Plus 4】 既習事項の丁寧なお願いの仕方、建物の名前を確認する。 言語材料を意識して対話練習に取り組み、形・意味・用法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> Unit 6 で学習した内容を振り返り、単純に場所を表すことはできるが、詳しい説明ができないことを確認する。 具体的に郵便局に行くための道のりを尋ねる表現は何か確認する。 ★ペアワークで道案内の応答の仕方に使う表現を確認する。 ★教科書のロールプレイをする。 	アイ アイ ウ アイ
9	指導者に尋ねられた場所への道順を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ★実際に地図を使い、道案内をする。 道案内の説明文をノートに家庭学習で書く。 	エ アイ
10	【Multi Plus 3】 言語材料を意識してモデルの内容を確認する。 作成した文を暗記して発表する。発表以外のグループは話題の中心となる内容を聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の新しい言語材料を確認しモデルを読み、内容を確認する。 ★グループになり、函館について紹介する6～7つの文を作成し、全体で発表する。 ノートに作成した文の清書を家庭学習で取り組む。 	アイ ウ エ

★ **コミュニケーション能力を養う系統的な学習**
 ・対話内容を工夫するために既習事項が使えることに気付かせる。

◎ **反復練習の工夫**
 ・インタビュー相手の工夫を図り、繰り返し練習することができるようにする。

◎ **4技能を総合的に扱う授業展開の工夫**
 ・話す・聞く・読む・書くの活動を意識して学習活動に盛り込む。

◎ **反復練習の工夫**
 ・制限時間を設定し、多くの友人やALTと対話させる。

◎ **コミュニケーション能力を養う系統的な学習**
 ・既習の言語材料では説明しきれない題材を与え、新しい表現の必要性を理解させる。
 ・既習事項を使って説明できるものは、それを活用させる。

★ **主体性を高める工夫**
 ・実際の学校の周辺の地図をワークシートに載せ、それを使って建物への行き方を説明させる。
 ・自分の住む函館の名物を想起させる。
 (例) 夜景, 朝市, イカなど

※ 吹き出し内の (例 実際の使用場面を想定) は、授業改善のキーポイントを示しています。

1 学力向上のための視点

(8) 学力向上プロポーザル授業

① 小学校国語科・3年説明的文章

単元名「身近な話題をとらえて話し合おう」 題材名「くらしと絵文字」

1 本時の目標

- 表現の仕方に着目したり，細かい点に注意したりしながら文章を読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- 表現の仕方や細かい点に注意しながら文章を読み，要点をとらえる。(読むこと)

2 本時の展開

- ① 本時に位置付けた言語活動 表現の仕方に注意して読む。
- ② 活用した言語活動例 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う言語活動

学習活動(形態)	評価規準	教師の活動	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を想起する。(全体) 第1段落では、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵文字とは何か ・ 絵文字の使われ方(昔・現在)について学習した。 ○ 第2段落を音読する。(全体) ○ 本時の学習課題を提示する。 <p>学習課題： たくさんの絵文字が使われているわけをまとめよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵文字がくらしの中でたくさん使われていることを確認する。 ・ 本時で学習する範囲を確認させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2段落を読み，絵文字の三つの特長をノートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一の特長について，本文をもとに短くまとめる。(全体) ・ 第二の特長について，本文をもとに短くまとめる。(個人) ・ 第三の特長について，本文をもとに短くまとめる。(個人) ○ 絵文字の特長三つを確認する。(全体) ○ たくさんの絵文字が使われているのはなぜかについて話し合い，その理由をまとめる。(グループ→全体→個人) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>絵文字の特長について，表現の仕方や細かい点に注意しながら読もうとしている。(態度)</p> <p>【読む能力】</p> <p>表現の仕方や細かい点に注意しながら読み，絵文字の特長をまとめている。(ノート・発言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の流れを説明し，見通しをもたせる。 ・ 「このように」に着目させ，指し示している事柄を確認させる。 ・ 絵文字の特長について，まとめて示している部分と，具体的な例を挙げている部分に気付かせる。 ・ 「絵文字の特長から」「理由がはっきりしてきます」に着目させ，問いかけの文の答えを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 十分満足な状況への手だて 指示語や接続語，くり返しの表現などを手がかりにして，要約させる。 △ 努力を要する状況への手だて まとめることが難しい児童には，ワークシートを活用させ，中心となる語や文をとらえさせる。
<p>まとめ：</p> <p>絵文字には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 絵を見たしゅん間にその意味がわかる 2 つたえる相手に親しみや楽しさを感じさせる 3 言葉や年れいなどのちがいをこえて意味がわかるという特長があるので、 <p>だから。</p> <p>(予想される言葉～べんり，わかりやすい)等)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉じてんに「説明に使う言葉」を書き加えさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り，表現の仕方を確認する。(全体) 			

学力向上のための4つ葉との関連



本單元における授業改善のポイント

- 見通しをもった学習
 - 絵文字発表会で自分の考えた絵文字を発表するために，読むこと領域「くらしと絵文字」を読むことで，わかりやすい説明の仕方について学習する。
 - 言語活動の位置付け
 - 学習活動の工夫～基礎的・基本的な知識・技能の定着のための方策
 - 1 単位時間の中で，身に付けさせたい言葉の特徴やきまりについて確認する場を設定する。
- ・ 要約 ・ 段落の要点
 - ・ 問題文とその答えの対応
 - ・ 主語と述語 ・ 指示語
 - ・ 接続語
- 「言葉じてん」を作成し，発表会で自分の説明に生かす表現を書きためる。
 - ※ 身に付けさせたい言葉の特徴やきまり
 - 系統的な学習の重視

単元の指導計画

	題材	時	主 な 活 動	評 価 規 準	学 習 活 動 の 工 夫
学習の興味・関心をもつ	「いろいろな絵を見つけよう」 2時間	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の扉を見て、学習内容を知り、学習の見通しをもつ。 絵文字について知っていることを発表する。 絵文字クイズを行う。 校内にある絵文字を見つけてカードに書いて紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 身の回りから絵文字を見つけてカードに書いて紹介し合う。 	ア アイ	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体について、学習の見通しをもたせる。 絵文字を見て、意味を考えるクイズを行い、題材に興味・関心をもたせる。 家庭学習で、家庭や地域で見つけた絵文字をカードに書かせる。
い説明的な文章を読み、わかりやすい特徴をとらえる	「くらしと絵文字」 本時 7時間	1 2 3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、感想をもつ。 新出漢字の読み方、書き方を学習する。 <ul style="list-style-type: none"> 語句の学習をする。 段落に分ける。 学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 第1段落を読み、絵文字の定義と、現在の使われ方について、まとめる。 第2段落を読み、絵文字の特長を3つとらえ、絵文字がたくさん使われる理由をまとめる。 第3段落を読み、これからの暮らしと絵文字の役割について理解する。 全文を読み、段落ごとの要点をつかみ、各段落の役割をとらえる。 関連する内容の本を読む。 	アエ アエ アイエ アイエ アイエ アエ ア	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。 総合的な学習の時間「街の探検」の発表会のVTRを見て、自分の発表の仕方を振り返らせる。 新1年生の体験入学に向けて、校内に完成した絵文字を掲示する計画を立て、意欲を高める。 身に付けさせたい言葉の特徴やきまりを確認する場を設定する。 「言葉じてん」に「説明に使う言葉」を書き加える。 様々な絵文字や記号やその使われ方について広く知る場を設定する。
学んだことを生かして表現する	「絵文字発表会をしよう」 9時間	1 2 3 4 5 6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> 自分が集めた絵が絵文字かどうか話し合う。 自分の作りたい絵文字を考え、テーマに基づいてカードに書く。 自分の考えた絵文字を紹介するためのスピーチメモを構成に気を付けて書く。 スピーチメモをもとに、発表の練習をする。 互いに発表を聞き合い、スピーチメモを修正する。 絵文字発表会を行う。 学習を振り返り、わかりやすい説明の仕方について確かめる。 	ア ア アウエ アウ アウエ アウ ア	<ul style="list-style-type: none"> 「いろいろな絵文字」でとらえた「絵文字の特長」を意識させる。 「いろいろな絵を見つけよう」で紹介し合ったVTRを見て発表の仕方を振り返らせる。 わかりやすい説明にするために「言葉じてん」を活用させる。 聞き取りメモを活用し、説明の順序や話の組み立て方を意識させる。 学習前の発表の仕方と絵文字発表会の発表の仕方をVTRで比較し、よさを具体的に確認させる。

② 小学校算数科・6年数量関係

6年数量関係「比例」

1 本時の目標

【関心・意欲・態度】
【数学的な考え方】

2つの数量の変わり方に興味をもち、関係を調べようとする。
2つの数量の求め方について、根拠を明らかにして考えることができる。

2 本時の展開

学 習 活 動 (形 態)	評価規準	教師の活動	評価を受けた指導
<p>本時のめあて：クリップの個数とクリップの重さを考えよう。</p> <p>学習課題：10個の時の重さが、4gのクリップがあります。このクリップがたくさん入った袋があります。クリップがいくつあるか考えましょう。</p> <p>これだけではわからないよ。 重さは何gかな。</p> <p>◎ 既習事項を基に、クリップの本数が何本あるか考え、ノートに書く。(自力解決・個)</p> <p>・比の考えを使えるかも ・積じゃないかな ・商を求める。 ・1あたり量の考えかも</p> <p>表を使えばいいよ ・数字を並べて書こう ・数直線を使おう ・線分図はどうかな</p> <p>◎ クリップの個数が何個か、どうやって求めたかを発表する。(集団解決・全体)</p> <p>・重さ÷個数で出したよ。 ・重さが○倍だと個数も○倍になるよ。 ・表で比べたよ。</p> <p>◎ どの方法がやりやすいか考え、意見を述べる。(集団解決・全体)</p> <p>・計算がわかりやすいよ。 ・表を使うと計算もしやすいよ。 ・はかせうどんは使えるかな</p> <p>◎ 方法を選択し、クリップの重さがどのくらいか考え、ノートに書く。(自力解決・個)</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>◎既習事項を基に問題の解き方を考えようとする。(観察・ノート)</p> <p>【数学的な考え方】</p> <p>◎2つの数量の求め方について、既習事項をもとに根拠を明らかにして考えることができる。(説明・ノート)</p>	<p>◎袋を除いたクリップの重さを提示する。T1</p> <p>重さは140gです</p> <p>◎自力解決に入ったところで、一度全体で問題を確認し、見直しを板書する。T1</p> <p>◎自力解決の様子を机間指導し、付箋でT1に状況を知らせる。T2</p> <p>◎なぜ数がわかったのか問う。T1</p> <p>◎必要に応じて答えを整理する。</p> <p>◎どの方法がやりやすいか問う。T1(結論は出さない)</p> <p>◎クリップの個数がわかっている場合に重さが求められるか問う。T1</p> <p>個数が700の時の重さは？</p>	<p>◎十分満足できる状況にある児童</p> <p>△努力を要する状況にある児童</p> <p>△自力で解決する上で困ったことがないか確認する。T2</p> <p>◎早く考えついた子には、他の方法がないか、どのように説明すればわかりやすいか考えさせる。T1・T2</p> <p>△主に自力解決できなかった子に問う。～聞いた説明を繰り返す(言いなおし)ことになる。T1</p> <p>△前の問題の解き方を黒板で確認させる。T1・T2</p>

学力向上のための
4つ葉との関連



本単元の授業改善のポイント

☆数量関係に正対するため、「比例」を選択。

◎既習事項を用い、明確な根拠を基に考えを表現させる。

◎算数的活動を通して、数量について多様な見方やとらえ方を身に付けさせる。

◎単元導入時に身近な生活にかかわりのある内容を取り入れ、主体的に課題解決に向かうようにさせる。



◎一般化する場面では「はかせうどん」の考え方(速く・簡単・正確・うつくしく・どんなときも)を適用させ算数のよさに気付かせる。

◎問題題解決型の授業を構築し、主体的に問題を解決させる。

→隣のページへ続く



P 3 4 小学校算数科「解決すべき課題」参照

<p>○ クリップの重さがどれくらいか、どうやって求めたかを発表する。(集団解決・全体)</p>  <p>○ 本時の学習で気付いたことをノートに書き、発表する。</p>  <p>クリップの本数と重さは計算で求められるよ。</p> <p>個数が2倍になると重さも2倍かな?</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○2つの数量の求め方について、根拠を明らかにして考えることができる。(説明・ノート)</p>	<p>◎ 自力解決の様子を机間指導し、付箋でT1に状況を知らせる。T2</p> <p>◎ なぜ数がわかったのか問う。T1</p> <p>◎ 必要に応じて答えを整理する。</p> <p>◎ 本時の学習をふりかえって、気付いたことをノートにまとめて発表させる。T1</p>	<p>△補助発問 どんなことでもいいですよ。当たり前だと思ふことでもいいですよ。 T1</p>
<p>まとめ1：クリップの重さとクリップの数の2つの数は、計算で求めることができる。</p>			
<p>まとめ2：クリップの重さとクリップの数の2つの数には何か決まった関係がありそうだ。</p>			
		<p>◎まとめは、この場合、いつでもあてはまるのか、問題提起する。</p>	

単元の指導計画（本時以降）

第2時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数量や図形についての技能】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

伴って変わる2つの数量の変わり方に興味をもち関係を調べようとする。

比例の関係を表を用いて、調べることができる。

比例の意味を理解する。

・前時の学習をもとに、表を作成し、比例の意味を理解する。

第3時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数学的な考え方】

主な活動

比例の性質にはどのようなものがあるか調べようとする。

比例する2つの数量の関係について、多様な見方で調べている。

・第1時の活動を想起し、表を用いて比例の性質を見つける。

第4時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数学的な考え方】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

比例の性質にはどのようなものがあるか調べようとする。

比例する2つの数量の関係について、多様な見方で調べている。

比例の性質を理解する。

・比例の性質をまとめ、比例関係にある場合とそうでない場合を区別する。

第5時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数量や図形についての技能】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

比例の問題に、意欲的に取り組もうとする。

比例の関係を表で表したり、比例関係にある2つの数量を計算で求めたりできる。

比例の性質を理解している。

・比例の問題に取り組む。

第6時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数量や図形についての技能】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

比例の関係をグラフに生かし、その特徴をとらえようとする。

比例の関係をグラフに表したり、よんだりすることができる。

比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。

・比例のグラフを書いて、特徴を調べる。

第7時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数量や図形についての技能】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

比例の関係をグラフに生かし、その特徴をとらえようとする。

比例の関係をグラフに表したり、よんだりすることができる。

比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。

・比例のグラフを書く。

第8時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数量や図形についての技能】

【数量や図形についての知識・理解】

主な活動

比例の問題に、意欲的に取り組もうとする。

比例関係にある2つの数量を、表やグラフで表すことができる。

比例の性質を理解している。

・比例についてまとめ、問題に取り組む。

第9・10時 評価規準

【関心・意欲・態度】

【数学的な考え方】

主な活動

比例の関係を表を用いて、間接的にはかたり、数えたりして数量を求めようとする。

比例の考え方を、問題の解決に役立てようとしている。

・学習したことを、身近な例に応用し、実際の生活の中で役立てる。

③ 中学校特別活動・2年

1 本時の目標

- 学級の生活の充実と向上を目指し、他の生徒と協力して意欲的に取り組もうとする。
- 学級の一員として、他の生徒の意見を尊重しながら、よりよい学級にするための方法を考え、実践しようとする。

2 本時の展開

学力向上のため
4つ葉との関連



学 習 活 動 (形 態)	評 価 規 準	教 師 の 活 動	評 価 受 け 方 等
○本時の課題を知る。(一斉)		○課題提示・説明	
学習課題：よりよい学級にするためにはどうすればよいか			
○話し合いの進め方を理解する。(一斉)		○話し合いの進め方についての説明 (ブレインストーミングのルールを黒板に貼る)	△考えを書けない生徒の支援
○ブレインストーミングを行う。 (4人グループになり、自分のアイデアを付箋に記入、台紙に貼る)	【関心・意欲・態度】 ○アイデアを積極的に記入する。	○机間巡視 (必要に応じて介入)	○進め方のよいグループをほめる
○アイデア进行分类する。 (グループで話し合いながら分類する)	【思考・判断・実践】 ○よりよい学級にするための方法を考え、判断して記入する。 ○自分の考えを的確に表現する。	○後半にデジカメで台紙を撮影 ○ワークシート1配布 ○分類方法の説明	△分類のヒントを与える。 ○進め方のよいグループをほめる
○グループの代表生徒が発表する。 (数グループ抽出：一斉)		○台紙の写真をテレビに映す。	
○グループ内でアイデアのうち一番重要と考えるものを選び理由を考える。(グループ)	【思考・判断・実践】 ○自分の考えを的確に表現する。	○ワークシート2配布 ○理由を詳しく書くようにさせる。	○進め方のよいグループをほめる △理由を書けないグループの支援
○グループの代表生徒が発表する。 (数グループ抽出：一斉)			
○事前アンケートの結果を知る。 (一斉)		○事前アンケートの結果をいくつか発表する。	
○本時をふりかえる。 (ワークシートに個人評価と感想を記入し、発表する。)	【知識・理解】 ○学級生活の向上の方法を理解する。	○ワークシート3配布 ○数名に感想を発表させる。	
○次時の確認		○次時に実践の仕方について話し合うことを伝える。	

本授業のポイント

- 学級活動で上記内容にかかわりのある内容
(2)「キ」心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成。
(3)「イ」自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用。
- 生徒自身が自ら進んで学習に取り組む意欲・態度を育成する授業
- よりよい学習環境の形成
- ◎学級集団の向上による、学校生活に取り組む意欲・態度の育成



P 3 3 ・ P 3 5 ・ P 3 6 中学校国語・数学・外国語における「解決すべき課題」及びP 2 9 ～ 3 1 学習意識調査を参照
(P 3 9 ～ 4 6) 全国学力・学習状況調査にも関連

1 学力向上のための視点

(8) 学力向上プロポーザル授業

プロポーザル授業実施の経緯

函館市では新学習指導要領の全面実施を前に、平成21年度のCRT分析（P24～P28）に加え、過去のCRT結果を分析し、函館の子どもたちの特徴的な課題は何か、さらに明確にしようという取組を行いました。（分析の結果はP32～P36）
分析の結果から、特徴的な課題が明らかになったことを受けて、学力向上のためのモデル授業、「プロポーザル授業」を実施しました。

授業公開までのプロセス

課題を解決するためにはどのような授業が必要なのか、指導主事と授業を行う教員が意見を交換しながら、単元の指導計画を作成しました。
P34～P39の「求められる授業」を基に、観点別評価・領域別の評価のうち、課題とされる点を取り上げ、「提案型」の授業を行いました。
その結果、国語は「読むこと」、算数は「数学的な考え方」を取り上げることにしました。また、中学校は、各教科等に共通する「学びに向かう姿勢」に着目し、生徒が主体的に学ぼうとする環境づくりについて、取り上げることにしました。

授業名・授業者等

①授業名 小学校第3学年

国語科 「身近な話題をとらえて話し合おう（読むこと～説明的な文章）」

授業者 函館市立湯川小学校 新沼 誠子 教諭

②授業名 小学校第6学年

算数科 「変わり方を調べよう（数量関係～比例）」

授業者 函館市立千代田小学校 竹内 昭夫 教諭

③授業名 中学校第2学年

特別活動 「よりよい学級にするために（学級活動～学級や学校の生活の充実と向上）」

授業者 函館市立赤川中学校 三河 正志 教諭

授業終了後に寄せられた意見から

小学校国語科の授業について

- 目的や見通しをもった学習計画の必要性や、「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ことをあらためて感じた。子どもが作る「言葉じてん」は参考にして取り入れたい。
- 学習常規をしっかり身に付けさせることが、確かな学びにつながると感じた。
- 情報の抜き出しはできたが、自分なりに解釈し発信することの難しさを感じた。

小学校算数科の授業について

- 児童が休むことなく2量の関係について、思考をめぐらしている様子がわかった。子どもたちの発言を中心に授業が展開されていく様子に驚いた。
- TTが機能しており、個に応じた指導がなされていた。付箋を利用した情報交換が良かった。
- 「学習常規」はもちろん「既習事項の定着」や「自力追求の力が身に付いていること」等が前提となる授業であり指導の積み重ねがなければ実践することは難しいと感じた。

中学校特別活動の授業について

- 子どもたちの授業に取り組む姿勢から、日常の指導の素晴らしさを感じた。
- ワークシートの効果的な使用と、グループ内の役割分担のよさが印象に残った。
- 全体での発表交流がなかったせいもあり、子どもの思考や変容が見えにくかった。

6 巻末資料集

① ノート指導について

実践例 思考の流れが見えるノート指導

小学校 第6学年 理科 単元名「水溶液の性質」

■ 板書

9月10日 水よう液と性質とはたらき

<課題> 水よう液を加熱すると、どのようなになるのだろうか。
注意すること！
 薬品の使い方に気を付ける。(直接触らない、直接においがかがらない！) **みほ**
 やけどやケガをしないようにする。 **けんた**

<見通し> 各班で予想を立てる。
 <実験結果のまとめ方>
 図にまとめる **ゆうき**、表をつくる **さとみ**、文で書く **まさと**

<実験結果のまとめ>
 ・水よう液を熱すると、石灰水と食塩は固体が残る。(3班)
 ・塩酸、炭酸水、アンモニアは何も残らない。(1班)
 ・塩酸とアンモニアはおいがした。(6班)

水よう液には気体が溶けているものがある！

■ 吹き出しや付箋を活用したノートの例

9月10日(月) 水よう液の性質とはたらき

P22 **課題**
 水よう液を加熱すると、どのようなになるのだろうか。

見通し
 溶けたものが全部出てくるのではないら...

結果

塩酸	何も残らなかった。
炭酸水	何も残らなかった。
食塩水	白いつぶが残った。
石灰水	白いつぶが残ったけど、食塩とはちがう。
アンモニア	何も残らなかったけど、においがした。

① とけているものには、気体と固体がある。

② **においがした！**

実験結果のまとめ
 ・水よう液を熱すると、石灰水と食塩水は固体が残る。
 ・塩酸、炭酸水、アンモニアは何も残らなかった。
 ・アンモニアのにおいは、気体から出てきたものである。

③ **実験結果から考えたこと**
 ・同じ液体でも、熱することによって、ちがいがあることがわかった！
 水よう液には気体が溶けているものがある！

感想
 これまで合せてみたところ、なるのたうら...と思った。
 次の時間の実験が楽しみ！

④ **実験の手順や注意事項を守って学習しました。結果を表にまとめたわりやす。2/10 佐藤**

①吹き出しや②付箋を使って気付いたことを書き込ませることににより、強調したい点が明確になるなど、思考を整理することができます。

③実験の結果からわかったことや考えたことを自分の言葉で書いたり、授業のまとめと関連するように工夫したりすることにより、思考の流れを記録することができます。

④学習に取り組む姿や見やすさ等に関する助言や励ましを書き添えることにより、学習への意欲を高めることができます。

平成21～22年度
 プロジェクト研究「確かな学力の育成に資する学習指導に関する研究」
 北海道立教育研究所 より

○ 次ページで紹介している、函館市学校教育指導資料「わかる授業づくりに向けて～学習指導のポイント10～」(平成22年3月発行)でもノート指導の具体的な例を扱っています。ぜひ、ご活用ください。

② 思考を促す発問・指示

ポイント7 思考を促す発問・指示

- 1 思考を広げたり、深めたりするための発問を工夫していますか？
- 2 ねらいとする学習活動や表現を促す適切な指示ができていますか？

子ども一人一人が意欲的に学習するよう、学習内容に対する興味・関心を喚起し、学習の見通しをもたせ、多様な考えを引き出したり、思考を促すことができる発問や指示を計画することが大切です。

視点1

○ねらいに即した発問（例）

- ① 既習事項を確認する発問
- ② 学習課題に導く（把握）発問
- ③ 思考を広げたり、深めたりする発問
- ④ 判断を促す発問
- ⑤ 比較したり異同を明確にする発問
- ⑥ 自分の考えやイメージを出させる発問
- ⑦ 視点を転換させたり、ヒントを与える発問
- ⑧ 自分を振り返らせる発問
- ⑨ 次の学習への意欲化を図る発問

既習内容を確認し、学習内容の定着度を把握できる。

多様な考えを促し、学習の広がりを引き出す。

学習内容を想起させ、学習内容の定着を促す。

視点2

○学習過程の各段階における発問の工夫

	学習活動	発問の例
導	○前時の学習内容を確認する。 ○興味・関心を喚起する。 ○学習課題を明確にする。	○不思議ですね。どうしてなのか調べてみましょう。 ○今日の課題をつくりましょう。 ○どんな点が問題でしたか。
入	○既習事項と比較する。	○これまでの学習とどこがちがいますか。
展	○解決への見通しをもつ。 ○関連や関係に気付く。 ○考えを明確にする。	○どんな順序（方法）で考えたらよいでしょう。 ○△△の方法も考えられないでしょうか。 ○Aさんはこういうことを言いたいのですね。
開	○分析的、総合的に考える。	○何からそのことがわかりかしたか。
まとめ	○学習したことをとらえる。 ○発展的にとらえる。 ○次の学習への意欲付けをする。	○今日学習したことをまとめてみましょう。 ○このことは、別の場合にも言えますか。 ○次の学習では、△△を調べてみましょう。

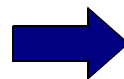
※ 上記の発問例は、1単位時間にすべてを取り入れるのではなく、重点化や焦点化を図る必要があります。子どもが、その時間の中で、最も力を発揮できる場面を想定して、1～2程度を中心となる発問を計画することが大切です。

視点3

○活動の目的や意義を明らかにする適切な指示

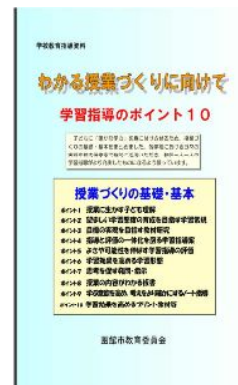
- ① 要点を押さえ、何のために、何を、どのようにするか具体的に指示する。
よくない…「まわりの人と話し合ってください。」
よ い…「4人でグループを作り、一人ずつ考えを発表し合ってください。その際、友だちの考えをメモをとるようにしましょう。」
- ② 活動時間を明確にし、活動の見通しがもてるよう指示する。

函館市学校教育指導資料
「わかる授業づくりに向けて～学習指導のポイント10～」
(平成22年3月発行)より



平成21～22年度プロジェクト研究
「確かな学力の育成に資する学習指導に関する研究」(北海道立教育研究所)
にも実践例があります。下記URLにアクセスしてみてください。

<http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/kenkyuu/project/h22project/tashikanagakuryoku/index.html>



③ その他の資料

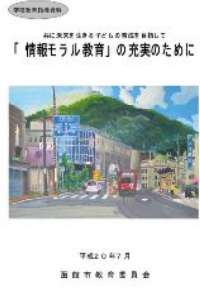


○函館市では「学校教育の指針」として、毎年「アプローチ」を発行しています。
具体的な取組の指針や例が示されていますので、組織的・計画的な取組を進めるために活用してください。



○函館市では家庭との連携を図るために上記のような資料を作成しています。
保護者懇談会や個別懇談会、PTA研修会などでお役立て下さい。

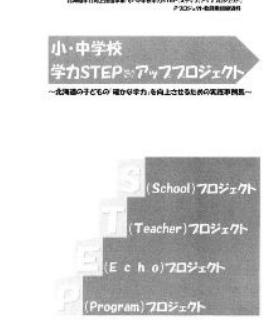
○右記のような学校教育指導資料は、函館市教育委員会で発行しております。



いずれの資料も下記URLよりダウンロード可能です。

http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/shidou/shidou.htm

その他の資料



北海道教育委員会発行資料

評価規準の作成のための参考資料
<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/shido/usiryu.html>

全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例について
<http://www.nier.go.jp/10zireishuu/index.htm>
(国立教育政策研究所)

全国的な学力調査
http://www.mext.go.jp/a_menu/shoto/gakuryoku-chousa/index.htm
(文部科学省)

【参考文献】

- 小学校学習指導要領 ○中学校学習指導要領 （文部科学省）
- 平成21年度小・中学校教育課程改善の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 平成22年度小・中学校教育課程改善の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）

平成22年度函館市学力向上プロジェクト推進委員会 （敬称略・所属団体順）

函館市立神山小学校
校長 後藤 慎 一
函館市立鱒川中学校
校長 林 弘 明
函館市立鱒川小学校
教頭 長瀬 雅 一
函館市立北中学校
教頭 大谷 眞 司
函館市立北星小学校
教頭 紺野 克 典
函館市立弥生小学校
教頭 秋山 隆 行
函館市立亀尾中学校
教頭 佐藤 美 加
函館市立潮見中学校
教頭 風間 和 夫
函館市立湯川中学校
教頭 内山 作
函館市立中部小学校
教諭 清水 布美子
函館市立八幡小学校
教諭 酒井 光 史
函館市立港小学校
教諭 坪谷 正 樹
函館市立千代田小学校
教諭 竹内 昭 夫
函館市立駒場小学校
教諭 斎藤 英 代
函館市立柏野小学校
教諭 平石 仁 恵

函館市立中島小学校
教諭 千田 尚 子
函館市立鍛神小学校
教諭 小酒 忠 義
函館市立えさん小学校
教諭 水野 団
函館市立本通中学校
教諭 中島 宏 幸
函館市立的場中学校
教諭 佐藤 大 輔
函館市立深堀中学校
教諭 寺崎 步
函館市立鱒川中学校
教諭 清水 修 子
函館市立赤川中学校
教諭 小川 史 浩
函館市立桔梗中学校
教諭 櫛田 朝 子
函館市立桐花中学校
教諭 立花 穰
函館市立北中学校
教諭 本谷 聡

【ご協力いただいた団体】

函館市小学校長会・函館市中学校長会
函館市小学校教頭会・函館市中学校教頭会
函館市小学校国語教育研究会・函館市小学校算数教育研究会
函館市中学校国語教育研究会・函館市中学校数学教育研究会
函館市中学校英語教育研究会

平成22年度 函館市学習状況調査実施報告書 「“あと一步”の向上を目指して」

発行者 函館市教育委員会
函館市東雲町4番13号
電話(0138)21-3557
発行 平成23年 3月